

松 山 大 学 論 集
第 20 卷 第 5 号 抜 刷
2 0 0 8 年 12 月 発 行

暮らしと環境政策に関する松山市民意識調査 調査結果概要 2

小 松 洋

資 料

暮らしと環境政策に関する松山市民意識調査 調査結果概要 2

小 松 洋

1. は じ め に

本稿の目的は、前稿「調査結果概要1」に引き続き、「暮らしと環境政策に関する松山市民意識調査¹⁾」(2007年12月実施)のうち、健康およびITに関わる不安に関する質問への回答を中心に、結果を記述することである。本調査の報告書は松山大学社会調査室(2008)として発行されているが、定期刊行物による結果の報告で、調査結果の社会への還元にさらなる貢献ができると考える。

2. 調 査 の 概 要

2.1. 調査の目的

地球温暖化からごみ問題まで、多岐にわたる環境問題が問題視されて久しいが、人々は環境問題についてどのように考えているのだろうか。あるいは何も考えていないのだろうか。また、何か環境問題に対して行動を起こしているのだろうか。

「エコ」活動にとっても熱心な人もいれば、駅やコンビニなどのごみ箱に家庭ごみを捨ててしまうルール無視者もいる。さらに、環境のことなどにはまったく無関心の人もいるように、環境問題に対する人々の考えや行動には大きな幅

がみられている。環境問題以外にも、食品表示偽装による食の不安や、インフルエンザの流行やタミフルに関する報道、コンピュータウイルスの被害や個人情報流出など、我々の暮らしを不安にさせる問題が社会には広がっている。

なぜある人々は関心をもち、別の人々は無関心か。人々が環境政策や環境問題および暮らしの中の不安に対して考えていること・実行していることを調査によって明らかにし、これらの疑問点に答えるための基礎データを収集することが本調査の目的である。

2.2. サンプリングと実査の方法

松山市有権者（2007年9月2日現在416,313人）を母集団として、選挙人名簿から2段無作為抽出法によって900名を抽出した。まず、市内全110投票区から確率比例抽出法によって15投票区を選出した。次に、各投票区から60人を系統抽出法によって選んだ。

調査票の配付と回収には郵送調査法を採用した。2007年12月10日～11日に調査票を対象者に郵送した。返送期限は12月20日としたが、それ以降に返送されたものも有効とし、最終的に2008年1月8日までに437通返送された。内、3通は対象者以外の別人が回答したものと判断されたので分析から除外し、434票を有効票として分析に使用した。有効回収率は $48.2\% (= (434 \div 900) \times 100)$ である。

2.3. 回答者の性別と年齢構成

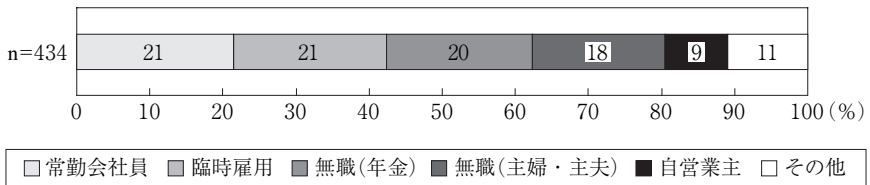
回答者の性別と年齢構成を表1, 2に示した。4割弱が男性、約6割が女性であった。年齢構成では60歳代の回答者が最も多く、50歳代、30歳代と続く。

性別	(%)
男性	38.0
女性	60.8
こたえない	1.2
%の基数	434

年齢	(%)
20 歳代	7.8
30 歳代	17.7
40 歳代	15.2
50 歳代	21.7
60 歳代	22.6
70 歳以上	14.5
こたえない	0.5
%の基数	434

職業別では、常勤の会社員、臨時雇用パートなど、無職(年金生活者など)、無職(専業主婦・主夫)がほぼ20%前後に分かれている。

図 2-1 回答者の職業 (n は回答者数。以下同様)



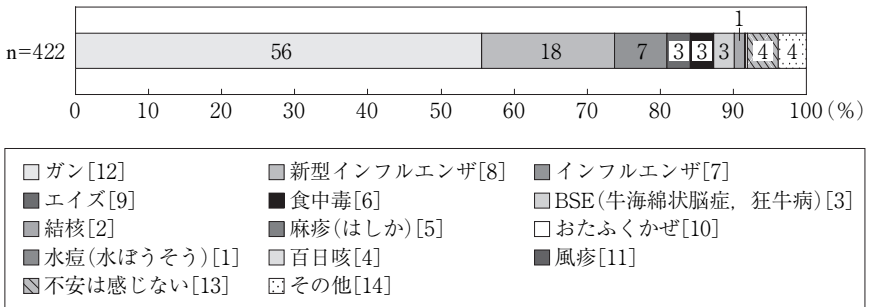
調査票は「環境問題」「食の安全性」「健康」「ITに関わる不安」の4テーマの質問および年齢・性別などのフェースシート項目から構成され、全43問(A4判×10頁)からなる。

以下の分析では、「健康」「ITに関わる不安」の2テーマについて、主要な質問項目の集計結果から読み取れる事実を記述していく。なお、集計結果にはその質問に回答しなかった人(表1、表2で「こたえない」と表記)はのぞいて数値を示してある。従って、%計算の基数(n)は434以下の点をご承知いただきたい。パーセントの数値は小数点以下第一位で四捨五入し、整数で表記してある。四捨五入の関係で合計が必ずしも100とはならない点にも注意されたい。また、グラフが見づらくなるため、極端に小さな数値はグラフ中に表記していない。

3. 健康

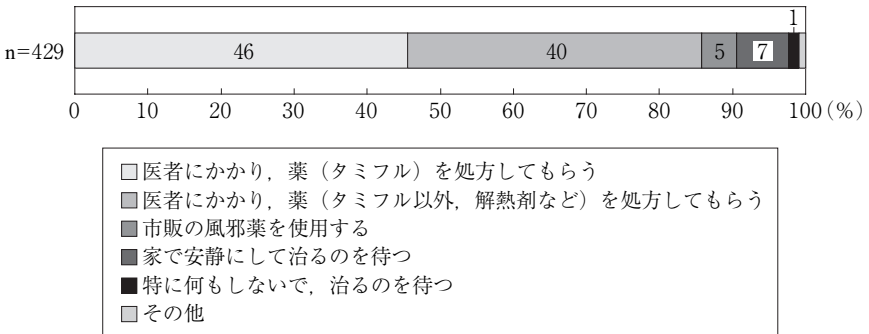
回答者が最も不安を感じている病気を12の具体的な病名と、「不安は感じない」「その他」の計14選択肢から1つ選んでもらった（問23）。図3-1から明らかなように、「ガン」を選んだ人が最も多く、半数以上の56%に上った。「新型インフルエンザ」の18%と続く。それ以外の病名で10%を超えたものはなかった。「不安は感じない」と回答した人は4%であった。

図3-1 不安を感じる病気（問23）



[]内は選択肢番号

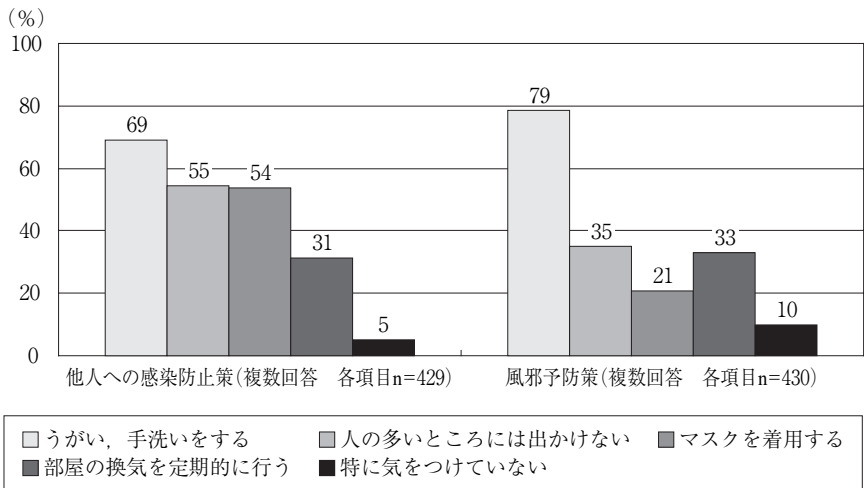
図3-2 インフルエンザへの対処法（問25）



インフルエンザに罹った場合にどのような対処法をとるかについての質問

(問 25) では、「医者にかかり，薬（タミフル）を処方してもらおう」が46%と最も多く，次に「医者にかかり，薬（タミフル以外，解熱剤など）を処方してもらおう」が若干少ない40%みられた。これら『医者にかかってなんらかの処方をしてもらう』との回答は86%と9割弱に達した。そのほかの回答としては「家で安静にして治るのを待つ（7%）」「市販の風邪薬を使用する（5%）」がみられた。

図 3 - 3 風邪の対策 (問 26)



本調査では風邪への普段の対策についても質問した (問 26)。「うがい・手洗いをする」など具体的な 4 方策と「特に気をつけていない」を含めた 5 選択肢を用意し，該当するものすべてに○を付けてもらった。自分が風邪にかかった場合に他人にうつさないために気をつけていることとしては，「うがい，手洗いをする (69%)」「人の多いところには出かけない (55%)」「マスクを着用する (54%)」が 50%以上の回答率であった。「部屋の換気を定期的に行う」を選んだ人はほぼ 3 人にひとりの 31%であった。

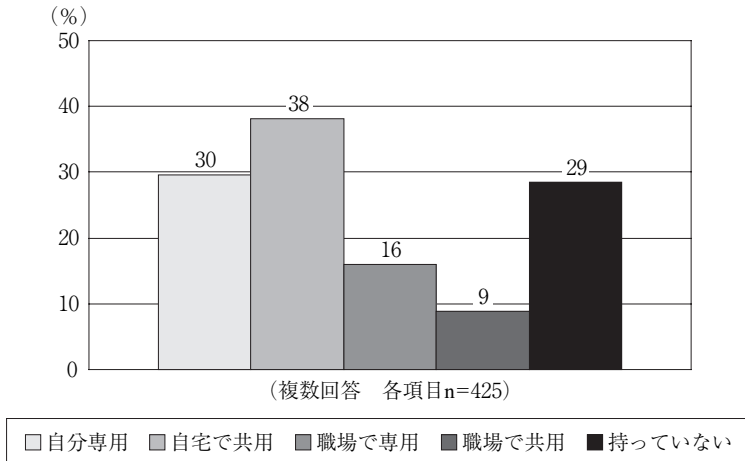
風邪の予防のためにしていることとしては「うがい，手洗いをする」が 79%

と最も高い回答率であった。50%を超えたものはこれだけで、次に多かった予防策は「人の多いところには出かけない (35%)」「部屋の換気を定期的に行う (33%)」であった。他者への感染防止では55%が指摘した「マスクを着用する」は21%と、予防策としては他の方法と比較して少ない選択率であった。

4. ITに関わる不安

コンピュータやインターネットの使用に関わる状況についての質問を設けた。パソコンの所有状況についての質問(問27)では、複数台所有(使用)の場合を考慮し、該当する選択肢すべてに○をつけてもらった。「持っていない」との回答が29%みられるものの、それ以外の7割程度の人は何らかの形でパソコンを所有している。回答で最も多かったのは「自宅で共用のもの」の38%、「自分専用のもの」の30%と続く。職場での所有率は若干低く、「職場で(自分)専用のもの」が16%、「職場で共用のもの」が9%であった。この質問には無職の人も含めて回答しているので、有職者のみに限定すれば、職場での所有率は若干上昇することが予想される。

図4-1 パソコン所有状況(問27)

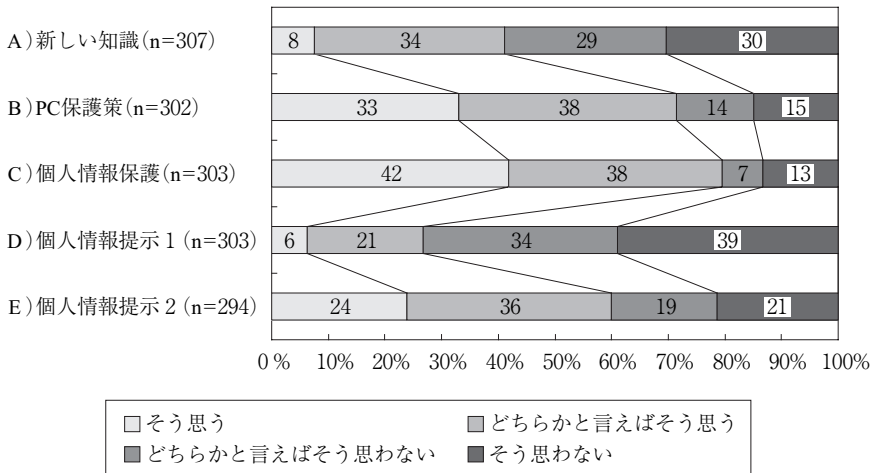


パソコンを使用する際の安全意識に関する次の5つの考えを提示し、それぞれについて同意の程度を、「そう思う」から「そう思わない」までの4段階で評定してもらった。

- A パソコンの専門雑誌を読んで、新しい知識を常に得ておきたい。〔A〕新しい知識
- B ウイルス対策ソフト以外でも、パソコンを守る方法があるなら使いたい。〔B〕PC保護策
- C 個人情報（プライベートな内容のファイル、メール、画像データ）を守る方法があるなら使いたい。〔C〕個人情報保護
- D インターネット上で自分が欲しいものを購入するためなら、運営者側に個人情報を提示してもよい。〔D〕個人情報提示1
- E アマゾンなどの有名企業が管理する場所でしか、個人情報は提示したくない。〔E〕個人情報提示2

〔 〕内は図4-2のラベルを示す。なお、本節で紹介する質問は、何らかの方法でパソコンの操作方法を学んだ人のみに回答を限定したので、%の基数(n)が300人程度となっている。

図4-2 パソコン安全意識評価(問29)

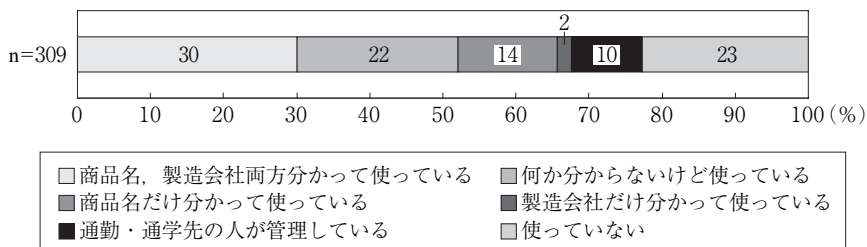


「A パソコンの専門雑誌を読んで、新しい知識を常に得ておきたい」と「そう思う（8%）」または「どちらかといえばそう思う（34%）」と回答した人は合わせて42%であった。パソコンや個人情報を守る方法があるなら使いたい（意見B, C）との考えに同意する回答（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は7割から8割に達した。「B ウイルス対策ソフト以外でも、パソコンを守る方法があるなら使いたい」では「そう思う」がほぼ3人にひとりの33%、「どちらかといえばそう思う」がそれより若干多く38%であった。「C 個人情報を守る方法があるなら使いたい」では「そう思う」の回答率が4割を超え42%、「どちらかといえばそう思う」の38%を合わせると、80%がそのように考えていることがわかる。

個人情報の提示に関する質問（意見D, E）では、情報の保護に積極的な意見が半数以上を占め、Cの結果と合致する回答が得られた。「D インターネット上で自分が欲しいものを購入するためなら、運営者側に個人情報を提示してもよい」では、「そう思わない（39%）」が最も多く、「どちらかと言えばそう思わない（34%）」を合わせると、ほぼ4分の3に当たる73%に達している。「E アマゾンなどの有名企業が管理する場所でしか、個人情報は提示したくない」との考えに対しては、「そう思う（24%）」「どちらかと言えばそう思う（36%）」と考える人が合計で6割（60%）見られた。

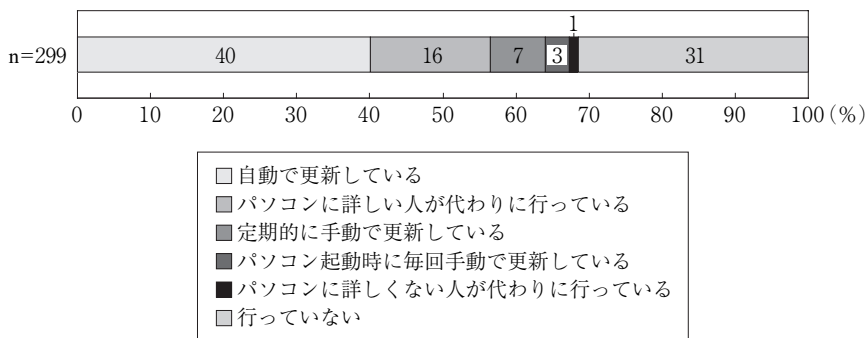
パソコンを利用するにあたってウイルス対策ソフトの使用状況（問31）およびソフトの更新（問32）について質問した。ウイルス対策ソフトの使用に関して最も多かったのは、「商品名、販売製造会社両方分かって使っている」の30%であった。次に多かったのは「使っていない」の23%、ほぼ同率で「何かわからないけど使っている」の22%であった。「商品名だけ分かって使っている（14%）」「通勤・通学先の人が管理している（10%）」と続き、「製造会社だけ分かって使っている」との回答は少なく2%であった。

図 4-3 ウイルス対策ソフト使用状況 (問 31)



ウイルス対策ソフトの更新についても質問した (問 32)。「自動で更新している」との回答が最も多く、40%に達した。「パソコンに詳しい人が代わりに行っている」が16%であった。一方、「行っていない」との回答が31%みられた。この回答には、問 31で「使っていない」人も含まれると考えられるが、いずれにしてもこれらのパソコンがインターネットに接続されていたり、外部とファイルのやりとりをするのに使用されていたりするのであれば、(本人が気づかないうちに) ウイルス感染や迷惑メール送信の「拠点」とされてしまう危険性があるといえよう。

図 4-4 ウイルス対策ソフト更新状況 (問 32)



5. ま と め

本稿では「健康」「ITに関わる不安」の2テーマに分けて、集計結果の記述をしてきた。最後に、これまでに述べてきたことを元にして、今後の研究の方向性について課題として述べておきたい。

健康に関しては、半数以上の方がガンを最も不安に感じている病気であることがわかった。日本人の死亡原因の上位に挙げられている病気であることから、この結果は首肯できる。インフルエンザ罹患時の対処として、『医者にかかる』との回答が多く見られた。今後はワクチン接種の質問項目などとの関連を調べ、人々の病気（予防）に対する態度を調べていきたい。

ITに関する質問項目では、パソコンや個人情報保護の保護に対して高い意識を持っていることが明らかとなった。一方で、ウイルス対策ソフトを使用していなかったり、更新をしていないとの回答が2割から3割程度みられた。単にパソコンを使用していないためなのか、使用していても、ウイルス対策ソフトまでは手が回っていないのか、早急に明らかにする必要がある。後者なら、対策ソフトを使用しない／できない理由をも明らかにすることが必要となる。

注

- 1) 調査主体は松山大学社会調査室。本調査は2007年度社会調査実習Ⅰ・社会調査実習Ⅱ（松山大学人文学部開講、担当小松洋）の一環として実施された。質問項目はすべて実習参加学生が作成し、本稿筆者が監修したものである。